

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域との連携を密にしながら、入居者様の個性、ニーズを大切に地域における介護サービスの提供を責任を持って行なっている | 開設時からの理念は職員間で考え、わかりやすい言葉で自分達が目指す介護の方向性が示されている。社内ミーティングでは繰り返し、理念に沿った支援がなされているか、振り返りの機会を設けている。玄関に掲げ、いつでも確認でき日々の支援の指針となっている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 新興住宅街の中に位置する事業所であり、散歩中の方も声をかけていって下さる。自治会の集まりや回覧板など、お仲間に入れてもらっている | 事業所は新興住宅地の一角に位置しており、これからの地域の中で、相互に協力しあい共に成長の途中にある様子も窺える。町内会に入会し側溝掃除、草取りには職員が参加し、地域の祭りには利用者と共に参加している。隣接する同法人のデイサービス、ショートステイと合同で行われる祭りには、地域の方の参加もある。積極的に地域に出て溶け込み、地域と共に成長していこうとする姿勢が窺える。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 自治会の集会、運営推進会議などの機会に問い合わせ、質問等あれば説明、お話ししている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ご家族やご近所、近隣事業書など様々な方向から頂いた意見、苦情等を傾聴し後に活かしている | 2か月に1回開催の運営推進会議には、毎回民生委員、数名の近隣住民、利用者家族が3～4名と力強い事業所の応援団の参加がある。職員では気づかない、それぞれの立場からの気づきがきっかけとなり改善へと繋がっている。事業所からは職員のがんばっている点を伝え、信頼関係の構築の要因ともなっている。出された意見は、職員間で検討し運営に活かされている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 必要時には連絡を取り合い、協力できる体制を築くよう取り組んでいる | 事務的な些細なことや疑問点等、何事も市担当者に確認していくようにしている。包括職員とも密な連携を図っている。現時点では困難ケースはないが、いつでも協力体制が得られるような関係性は築かれている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は一切行っておらず、施錠も行なって居ない | 年1回定期的に研修会を開き、職員全員で身体的拘束だけでなく、言葉の拘束、行動の制限等、日頃の支援の中で何が拘束に当たるのか、そのような支援がされているか確認している。身体拘束しないケアが当たり前のケアと認識し、目配り、気配りを十分に行い支援にあたっている。利用者本位を考慮しつつ利用者の安全を第一に考え、事業所側のリスク管理も家族に伝えている。 | |
| 7 | (5-2) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設内で虐待が無いことはもちろん、普段の声かけもマイナスの声かけをしないよう、又お互いに注意しあえる環境作りに努めている | 身体拘束しないケアと共に虐待防止についての研修も年1回実施している。職員全員が参加し、理解浸透、遵守に向け取り組んでいる。言葉かけひとつにも、「ちょっと待って」ではなく「すぐ参ります」等、利用者が安心できる言葉かけとなるよう努め、職員間で確認し合うようにしている。管理者は職員のストレスについても配慮し、風通しの良い職場環境となるよう努めている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 今年度の研修計画に位置付け、必要時は制度を活用できるように準備している | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時や改訂の際などには時間に余裕をもって納得いただけるまで十分な説明を行なって居る | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 普段から些細なことでも相談しやすい関係作りに努めている。また、運営推進会議でも活発な意見交換ができ、都度運営に反映させている | 随時、家族とは連絡、相談を行っている。家族面会時には管理者ができるだけ見送るようにし、日頃の様子を伝えると共に、家族が希望、要望を直接話せる機会をつくり、言いやすい雰囲気づくりに努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員の意見、提案は後回しにせず、必ずその場で聞き風通しのよい関係作りに努めている。上がった意見は運営、業務に反映させている | 2か月毎のミーティングは基本全員参加とし、活発に意見が出され、検討し運営に反映されている。話し合いのルールを表にし、誰でも自分の意見を表せるよう工夫している。ミーティング時だけでなく職員の意見、提案はいつでも聞き入れ検討し後回しにせず、職員にわかりやすく伝えるようにしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | みんなが気持ちよく働ける環境づくりに取り組んでいる 当たり前のことを当たり前でできるように、各々が自覚を持てるよう働きかけをおこなっている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 仕事の技術はもちろん、各々が一人前の社会人として成長していけるよう毎日指導している 法人内外の研修にも積極的に取り組んでいる | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域のグループホーム部会、秋葉区のケアマネ部会などに参加、ネットワーク作りに取り組んでおり、職員交流も計画している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 何でも話せる信頼関係を構築するべく、話しをさえぎることなく最後まで話しをきくよう留意している 困っていること、要望があればまずきっちりと聞いた上で検討している | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 上記に準ずる。その上で家族の想いも慮るよう留意する | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時、自施設のサービスだけでなく、他サービスも含めて、本人、家族にとってベストな判断を公平に行っている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人のできる事まで取り上げてしまわないよう自立支援の観点から対等な関係が保てるよう努めている | | |
| 19 | (7-2) | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 施設任せになってしまうよう、協力して利用者本人を支えていく関係作りに努めている。連絡を密にとり、月に1回様子を伝えるお便りを発行している。 | 通院介助や馴染みの美容院への送迎等、できる範囲で家族の協力は得られている。月1回のお便りには、本人の様子を細かく記入し、遠方の家族にもわかりやすく身近に感じられ安心感がある。担当制ではなく、さまざまな職員がそれぞれの目で見ることにより、色々な本人の様子がわかり好評を得ている。便りの充実を前年の課題に掲げており、十分達成されていることは評価したい。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 一緒に外出など積極的に勧めている 面会時にもゆっくりと話せるよう環境作りをしている | 入居前に利用していたデイサービス、ショートステイに出向き、馴染みの利用者、職員との交流の支援が行われ本人の楽しみにもなっている。また外出時に自宅近くを通った時には立ち寄ることもある。兄弟の面会もあり、それぞれの利用者に合わせた支援がなされている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 共同生活がスムーズに行えるよう、職員は間に入り入居者の関係が維持できるよう配慮している | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も要望があれば相談・支援を行なっている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 個別の要望、ニーズを引き出すよう努めている | 入居前の訪問時に心身状況や生活習慣を把握している。日々の生活の中から見えてくる何気ない言葉や思いを吸い上げ、普段の関係作りを大切に本人の視点に立って否定することなく、一人ひとりに応じた生活が送れるように環境を整えている。 | |
| 24 | (9-2) | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | その方の生活歴、環境、趣味嗜好や以前利用したサービス経過の把握に努めている | 入居前にフェイスシートを用いて、本人、家族から情報を引き出しアセスメントしている。生活歴や希望、趣味や得意等を確認、又、前任のケアマネや事業所からも利用状況を把握し、安心して表情も豊かに前向きに生活が送れるように気付きや情報を職員間で共有している。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の生活の中でできること、できないこと、お体の状態の把握ができるよう努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画の策定前にはチームで担当者会議を行い、情報の収集をして介護計画を行なっている また、モニタリングを月1回以上行なっている | ケアマネが中心となり、本人の意向を踏まえ、家族、職員からの意見を汲み取り、本人の目標に添ったケアプランを作成している。月一回のモニタリングは職員が実施し、生活から見てくる気付きを月のお便りにも記録している。又、状態を確認して必要に応じて計画の見直しや追加も行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日の様子を日誌、ケース記録に記入している 記録の閲覧とともに申し送りを行い情報を共有している | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 今までは取り組んでこなかったが共同生活の中でも、ひとりひとりにあった個別のケアを計画、勧めていく | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 土地勘が無く、事業所の情報も少ないため地域資源を把握するべく取り組んでいる。会合などには積極的に参加、コネクションづくりに取り組んでいる | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診時は現在の状態や、ホームからの相談など医療連携手帳を活用している | 本人、家族が希望するかかりつけ医を尊重している。受診は家族対応が基本であるが、緊急時や不可能な場合は職員が代行している。日頃の状態を記録した医療連携手帳を受診時に家族に渡し主治医との連携が図られている。主治医からもコメントを頂き情報を共有している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|--------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護と看護の連携票を使い情報を共有、24時間の連絡体制もある | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時は医療相談員と連携をとり、スムーズな支援ができるよう努めている。入院時は定期的にお見舞いを行っている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 状態の変化があった際に先々を見据えて方向性の検討、ホームでできる対応についてご理解をいただき家族、主治医、看護師等々連携をとり支援に取り組んでいる | 入居開始前や早期から本人、家族には事業所として「重度化対応、終末期ケア対応指針」について説明が行われている。心身状態の変化や日々の様子の共有は家族や主治医、看護師と連携を図り慎重に対応している。本人の状態に応じた病院や施設入所への推進支援を行っている。 | |
| 34 | (12-2) | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | AED設置時に講習を受けている 消防署での救急講習を順次受けているが、未講習の職員もいる 急変時の連絡体制を定期的確認している | AED設置時に事業所から講習を受けている。事故発生時に備え、マニュアルの整備や救急講習も受けて職員が急変や事故発生時の対応が出来るように努めている。 | 今後は、看護師等から定期的に事業所内で応急手当、初期対応、急変時の研修会・勉強会等を開催し、全職員が事故発生時の対応を周知できることを期待したい。 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災時の避難訓練、災害時の対応についての研修を定期的に行っている | 事業所内では年2回避難訓練を実施し、夜間想定した訓練も実施している。マニュアルの作成や消火器の使い方、避難場所の確認などは全職員が周知している。又、地震、水害、火災等の様々な災害を定期的にビデオにて勉強会を行なっている。非常用食品や備品の整備などは法人内で協力体制が築かれている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人格を尊重し、決して否定することのないような言葉かけ、対応にひとりひとりが気を付けている | 入居者一人ひとりの状況に合った言葉かけや対応に配慮し、又、距離感も大事に丁寧には方には方も交えて心温まる対応に努めている。不適切なケア時には注意し合い全職員が尊重した対応が出来るように心掛けている。日々の記録時にもプライバシー保護に注意をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | お話をよく聞き、思いをすくいあげた上で、できるところは自己決定をしてもらえよう配慮している | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員側の都合や決まりを優先しないよう日々気をつけながら業務にあたっている 時間中心の業務にならないよう注意している | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の希望を第一に、自分でできない方は一緒に服を選んでいる 化粧品などはご家族にも協力してもらっている また、訪問理美容でパーマや白髪染めもできる | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 野菜を切ったり皮を剥いたり、一緒に食事の準備を行っている 配膳、下膳や皿洗いなど皆で協力して行っている | 毎日入居者と共に買い物に行き、入居者と一緒に食事作りをしている。一人ひとりの能力や意欲を引き出し、出来ることを維持している。畑で採れた季節の野菜を調理して旬の味を楽しんでいる。大きな一つのテーブルで入居者と職員が楽しく食事が摂れる雰囲気作りを大切にしている。手作りのホワイトボードに今日の献立を記載し今日の食事を楽しみにしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | その方に合わせた食事量、食事形態の工夫をしている メニューはグループホームで統一したものを使用している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | その方に合わせて毎食後声かけ、誘導、介助を行っている | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | なるべくトイレで排泄ができるよう時間で誘導したり、動作、仕草などで声かけを行っている | 入居者一人ひとりにチェック表を用いて排泄パターンを把握している。さりげない声かけや時間誘導には細やかな支援を行ない、自立に向けた丁寧な対応や羞恥心の配慮に努めている | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 朝食時に押し麦を白米に混ぜ、食物繊維を多く摂取できるように工夫している。又、水分摂取量のチェックを毎回行っており、薬剤ばかりに頼る事の無いよう取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 安全面や職員配置の問題もあり、時間帯の制限はあるが、その範囲内で個々の希望やタイミングに合わせて入浴を行っている | 時間帯の制限はあるが個別対応の入浴が出来るように支援している。浴室内は明るく、補助具も整え室温環境も調整している。菖蒲湯、ゆず湯等の変り湯のお風呂を楽しむ取り組みもしている。状態に応じてリフト対応の入浴も出来る設備も整っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 自分のリズムで入眠してもらっている 夜間あまりに遅かったり、昼夜が逆転するようなことが無ければ自由にしてもらっている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は薬情の把握に努め、変化などあった場合は全員が共有できるようしっかりと申し送る | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人に合わせた楽しみ方を提供できるよう日々工夫している。無理強いせず、各々が楽しんでもらえるよう支援している | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | その日の希望に添って外出の支援ができるように努めており、散歩・買い物等によく出掛けている。ご家族にも都合の良いときに気分転換と一緒に出掛けたりしてもらえるよう働きかけている | 一人ひとりの希望に応じての外出は可能である。月に2回ほど全員参加の外出や食事会、地域の祭り等の季節の楽しみを企画している。近くにある同法人との交流も大事にレクリエーションの時間を楽しませている。思い出作りの写真を撮って明るい表情で生活している様子を月1回のお便りに載せ見せている。又、ご家族からの協力を得て外泊したり家に戻ったりと外出を働きかけている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の管理能力に応じて家族と相談し自己管理の手持ち金と必要時に買い物ができるよう事務所管理のお小遣いで支援している | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 要望がある時は電話をかけたり、手紙を出したり支援している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関には季節の装飾や花を飾ったりしている。共用スペースはトラブルなく使用している。 | リビングには大きなテーブルを置き入居者が集う場所として活用され、会話や家事の音など生活感があふれている。畳の部屋やソファもあり思い思いの場所で過ごすことが出来る。ステーションからホールが見渡せるつくりとなっており、制約なく移動できるよう危険な物は置かず施設内は整理されている。玄関や廊下、ホール内の飾りつけは入居者と共に作り季節感を醸し出している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 自分の席は相性や導線を考え配置している。共用のソファや畳のコーナーがあり、自由に使うことができる | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 地震の使い慣れた家具や道具をお持ち込みいただいて自分の部屋として自由に使ってもらっている | 使い慣れた物の持ち込みは自由であり、心地良く安心した生活が送れる居室となっている。トイレも近い距離に設置され安心である。本人、家族、職員が協力しながら、その人らしい部屋になるような工夫を提供しており、安心して生活が送れるように支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内部はバリアフリーで手すりもあり安全に過ごせる設備である。一緒に家事などを行い、自立した生活が送れるよう働きかけている | | |